

## 事例2 利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させる指導の工夫

### 1 ねらい

新学習指導要領において、「財務会計Ⅱ」では、「財務会計Ⅰ」の学習を基礎として、財務会計に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置き、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び提供された会計情報を活用する能力と態度を育てる観点から、従来の「会計実務」の内容を再構築し、設けられた。改訂では主として、資産会計、負債、純資産会計、財務諸表の活用及び監督と職業会計人の職務に関する内容を取り入れることがねらいとして挙げられる。

「財務会計Ⅱ」では、(1) 財務会計の基本概念と会計基準、(2) 貸借対照表に関する会計、(3) キャッシュ・フロー計算書、(4) 企業集団の会計、(5) 財務諸表の活用、(6) 監査と職業会計人の6項目で構成されている。今回の研究では、会計情報を活用させるという視点から、(5) 財務諸表の活用に焦点を当てた。(5) 財務諸表の活用では「企業価値の評価、連結財務諸表分析、財務諸表と株価の関連を取り扱い、財務諸表を活用するための基本的な知識と技術を習得させる」ことがねらいとされている。

これを踏まえて、本事例では科目「会計実務」の調査研究を行った。インターネットや情報機器などを活用し、各企業の有価証券報告書を取り上げ、そこから読み取れる経営成績や財政状態を分析・判断させ発表させた。この学習活動を通して、財務会計に関する知識と技術を習得させるとともに、利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について興味・関心をもたせ、主体的に考察させることを目標とした。また、ワークシートを活用して、有価証券報告書を分析させ、発表させるという言語活動を取り入れた。

なお、「財務会計Ⅱ」は新科目であるため、同じ学習効果が期待できる「会計実務」の単元「連結情報の利用（有価証券報告書）」を発展させた学習として位置付けた。

### 2 授業実践

#### (1) 指導内容

- ・有価証券報告書の目的や主な記載事項を理解させる。
- ・企業を選択し有価証券報告書に関連付けて、財務分析したものをまとめ、発表させる。
- ・学習活動を通して得られた分析結果を踏まえ、法的根拠に基づき客観的な視点からまとめさせる。

#### (2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①有価証券報告書の内容に関心を示し、意欲的に読み取ろうとしている。	①有価証券報告書を活用し、企業情報を適切に分析している。  ②有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。	①有価証券報告書についてまとめた資料を活用し、分析結果を明瞭に表現している。	①企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(3) 単元の指導計画（5時間）

時間	学習内容	評 価				
		関	思	技	知	評価規準
1	○有価証券報告書の主な記載事項を紹介する。	①				・有価証券報告書の内容に関心を示し、意欲的に読み取ろうとしている。
2 ・ 3	○興味・関心のある企業の有価証券報告書をインターネットを活用し分析する。		①		①	・有価証券報告書を活用し、企業情報を適切に分析している。 ・企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
4	○有価証券報告書を分析した内容を分かりやすくまとめる。		②		①	・有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。 ・企業における有価証券報告書に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
5	○有価証券報告書の分析した内容を分かりやすく発表する。		②		①	・有価証券報告書の分析結果を分かりやすくまとめている。 ・分析結果を明瞭に表現している。

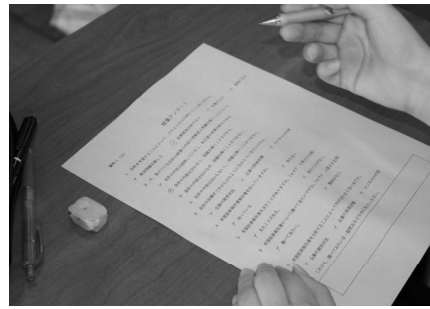
(4) 授業の概要

ア. 1時間目の授業

段 階	学習活動	指導上の留意点
導 入	・授業に関するアンケートに回答する。 ・単元の学習内容の予告と教科書の内容を確認する。	
展 開	・有価証券報告書の意味と内容を理解する。 ・調査したい業種・企業について検討する。	・教科書に記載されている有価証券報告書を説明する。 また、売上高や当期純利益などの推移は、実数を用いて解説する。
まとめ	・次時の学習内容の概要をつかむ。	・次時はインターネットを活用し、有価証券報告書を調べることを予告する。

実践は第3学年を対象に行った。1時間目の授業に先立ち、生徒を6班（1班6名～8名）に編成した。また、2年間学習してきた簿記会計分野についての知識と単元で活用する有価証券報告書の理解状況を把握するために、アンケート調査【資料1】を実施した。有価証券報告書は、金融商品取引法で規定された事業年度ごとに作成する企業内容を外部へ開示する資料であり、決算書だけでなく、企業沿革、資産保有、事業上のリスク、財政状態、経営成績及びキャッシュフ

ローの状況分析等が記載されている。このため、有価証券報告書を読むことを通して、簿記会計とビジネスの実務を関連付けて考察させることは、学習内容をさらに深化させるための有効な手段であると考えた。



授業アンケートに記入している様子

○授業アンケート

日頃、授業において実務を意識しているか、調査を行った。【資料1】

【資料1】

**授業アンケート**

1 会計を学習することによって、どのような力が身に付くと思いますか。  
 ア 検定問題を解く力    イ 財務諸表分析する力    ウ 計算する力    エ 表現する力

2 今、受けている会計の授業の内容の理解度と問題を解くことについて  
 ア 会計の内容は理解しており、各企業の財務分析もできる。  
 イ 会計の内容は理解しており、問題を解くことができる。  
 ウ 会計の内容は理解しているが、問題を解くことができない。  
 エ 会計の内容は理解できず、問題も解くことができない。

3 会計の知識をこれからどのように活かしていきたいですか。  
 ア 企業の経営状況    イ 企業の財政状態    ウ ビジネスの内容

4 有価証券報告書報告書を知っていますか。  
 ア 知っている    イ 知らない

5 有価証券報告書を見たことがありますか。(4でアと答えた生徒)  
 ア 見たことがある。    イ 見たことがない。

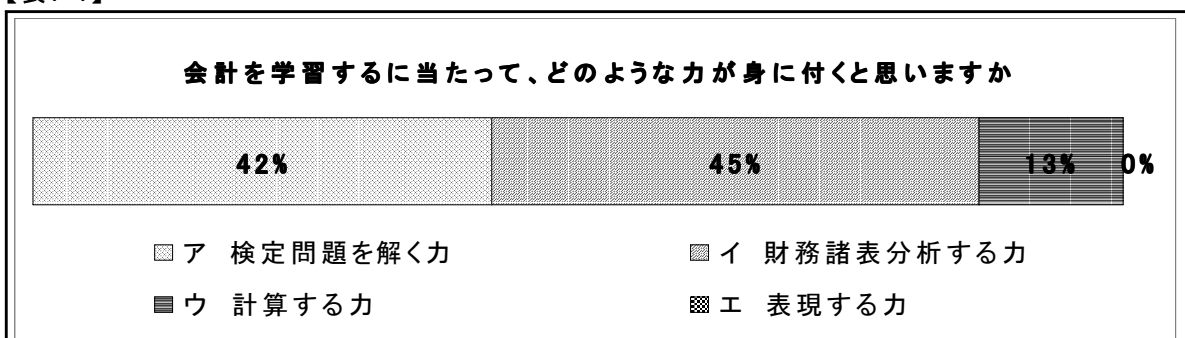
6 有価証券報告書について調べてみたいですか。(4でイと答えた生徒)  
 ア 調べてみたい。    イ 興味がない。

7 有価証券報告書を分析することによって何が分かると思いますか。  
 ア 企業の経営状況    イ 企業の財政状態    ウ ビジネスの内容

8 これから、調べてみたい点・疑問点など自由に記入しなさい。

○授業アンケートから

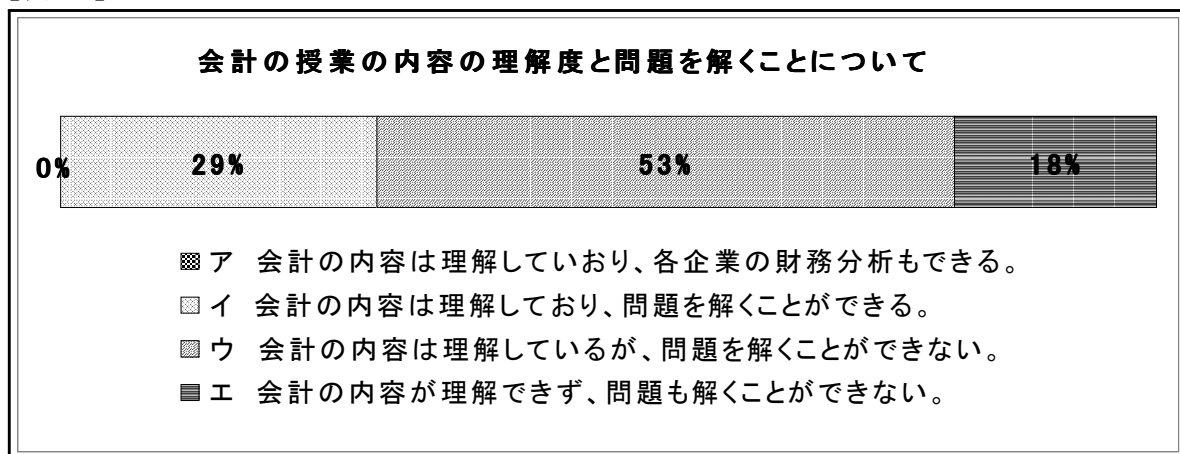
【表1-1】



「会計を学習することによって、どのような力が身に付くか」についての主な回答は、「検定問題を解く力」42%と「財務諸表分析する力」45%とほぼ同程度に分かれた【表1-1】。

生徒は、検定学習の意識が高いにもかかわらず、「検定問題を解く力」と答えた生徒より、「財務諸表分析する力」と答えた生徒がやや多かった。生徒は資格取得にとどまらず、企業の経営に関心を持ち、主体的に実務に即した力を身につけたいと考えていることが分かる。

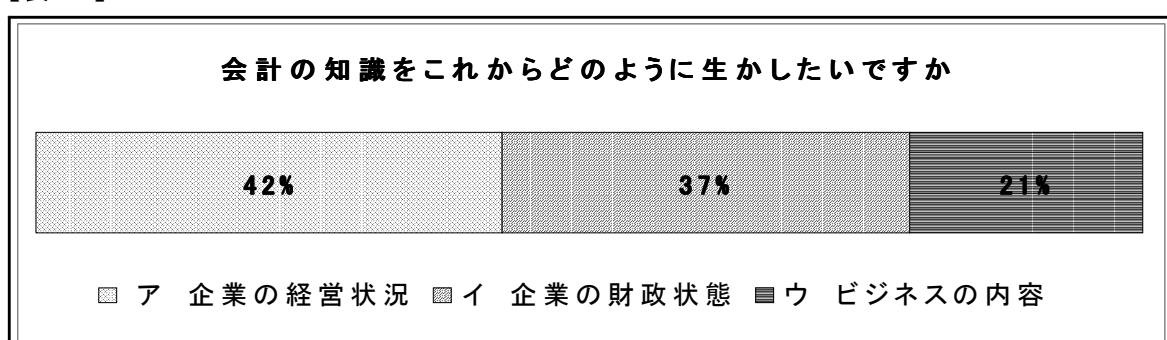
【表1-2】



「授業の理解度」については、「授業が分かる」と回答した生徒（アまたはイと回答した生徒）は、全体の29%であり、「授業が分からない」と回答した生徒（ウまたはエと回答した生徒）は、全体の71%であった【表1-2】。

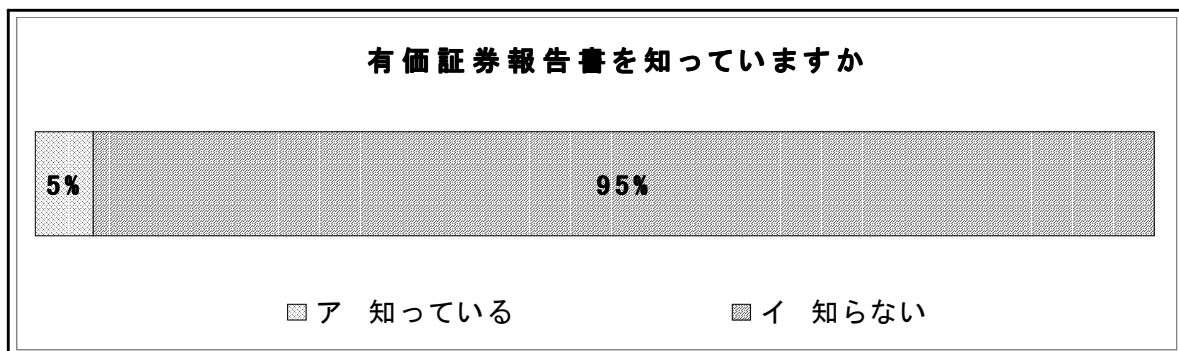
この結果は、教師や生徒にとって簿記・会計の授業の目的が「資格取得」となり、授業が解法のテクニックや過去問題のパターン学習になりがちであることに深い関連があると考えられる。検定試験の合格を目指し、解法のテクニックや基本的なパターンを覚えて結果を求めてしまうことで、授業では表面的な理解にとどまり、知識の定着が図れない。このような状態では、専門的知識を習得しても実務につなげることは難しく、専門性の深化を図ることができなくなることが考えられる。

【表1-3】

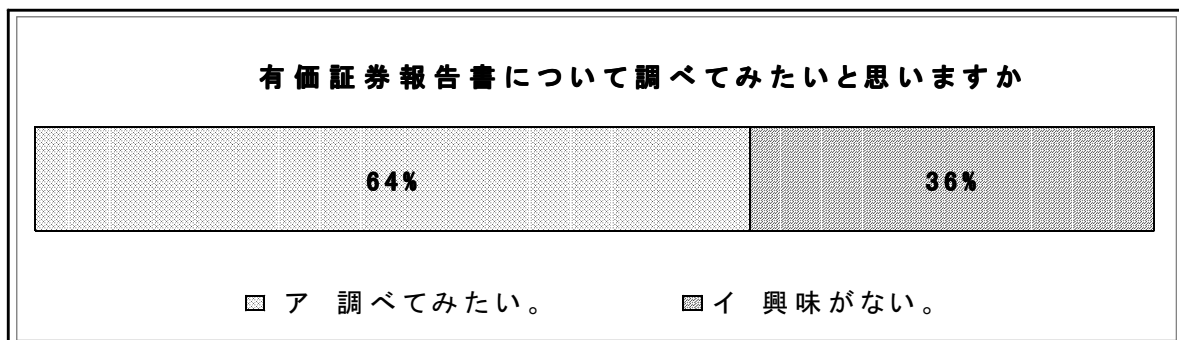


生徒は、すでに財務諸表（損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書等）を学習しており、約80%近くが「企業の経営状況」、「企業の財政状態」と回答している【表1-3】。このことから、商業で学び得たことをビジネス社会のなかで活用していきたいという意欲的な姿勢に結び付いている。

【表1-4】



【表1-5】



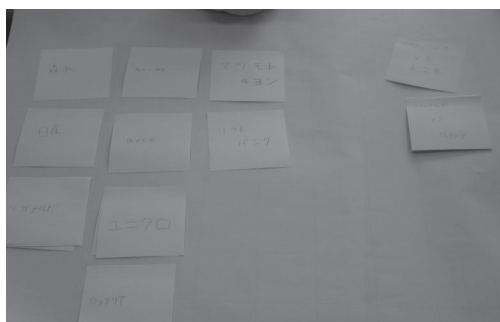
有価証券報告書をほとんどの生徒が知らないという回答【表1-4】であったが、有価証券報告書について興味・関心をもつ生徒は64%であった【表1-5】。自分たちが学んでいるものと実際のビジネス活動の関連性について、興味・関心をもっていることがうかがえる。

○これから、調べてみたい点・疑問点など自由に記入してください。

- ・いろいろな会社の経営状況。
- ・企業の損益計算書や貸借対照表を見てどういう点にお金を使っているか調べたい。
- ・大手有名企業の経営成績を調べてみたい。
- ・キャッシュ・フローについて知識を深めたい。
- ・どのくらい会計が世の中で大切なのか。
- ・学んだことを生かして企業の財政状態について調べてみたい。
- ・企業がどのような経営方針で企業を運営しているのか。
- ・会社や企業に出る経営状況の資料の見方を調べたい。
- ・今学習している内容が実際には、どのように生かされているのか。

自由記述から、生徒の企業における実務について興味・関心がうかがえる。生徒は授業内容の理解にとどまらず、現在学習している内容と実際の実務との関連性など、学びの中で企業の経済活動を主体的に考察しようとしている。このことは、会計情報活用能力を育てる重要な意味をもつと考えられる。

アンケートを踏まえ、ビジネスの諸活動に目を向けさせるための指導として、有価証券報告書の概要を理解させるとともに、付箋に興味・関心のある企業や、今後、経済社会において注目されるであろう企業を書かせた。また、その企業を選んだ理由も記入させ、模造紙に貼ってグルーピングをさせ、調査したい業種・企業について各班で検討させた。



付箋を使い企業名を挙げる



付箋を活用し、グルーピングしてまとめている様子



調べたい企業を黒板に掲示している

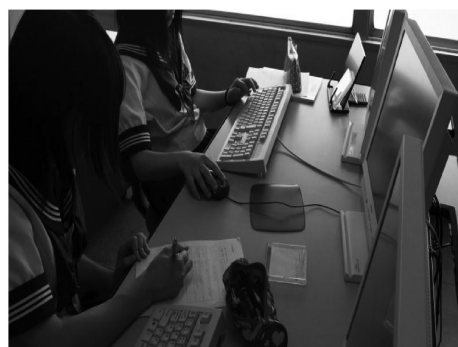
### ○調査テーマ

- 1班 幅広い年齢層に人気のあるテーマパークについて考察する。
- 2班 世界的に有名な日本の電気産業を考察する。
- 3班 世代を超えて人気のあるファーストフード産業を考察する。
- 4班 世界的な経営戦略を展開する日本の自動車産業を考察する。
- 5班 スマートフォンが注目され、インターネット上で経営するIT産業を考察する。
- 6班 世界中に店舗展開を行い、コーヒー販売等、特色ある販売戦略を行っている企業を考察する。

## イ. 2時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・調査テーマの確認と有価証券報告書の確認をする。	
展開	・前時に挙げた企業の中から、インターネットを活用して、グループごとに有価証券報告書を調べる。 ・前時で調査テーマとした企業の有価証券報告書を分析する。	・企業のイメージではなく、データから客観的に分析させる。
まとめ	・調べた有価証券報告書の内容をまとめる。	

2時間目は、インターネットを活用することにした。本時では有価証券報告書の内容を確認させるとともに、有価証券報告書に関する法規や利害関係者にどのように会計情報を提供しているのかなども確認させ、有価証券報告書の概要を把握させた。また、各班の調査テーマが発表する内容として適しているかどうか、班ごとに再度検討するよう指示した。



インターネットを活用し、有価証券報告書を調査している様子



調査テーマが発表として適しているかどうかを、有価証券報告書を基にして検討している様子

### ウ. 3時間目の授業

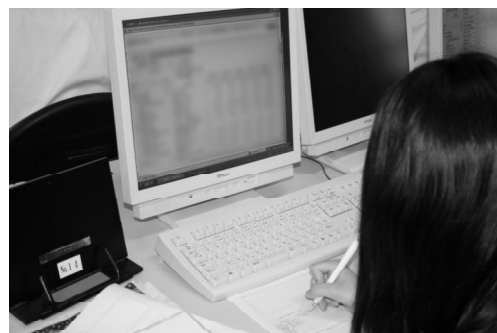
段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・調査する企業の有価証券報告書を確認する。	
展開	・ワークシート（発表用調査資料）【資料2】をもとに、情報を整理し、共有する。 ・有価証券報告書から経営分析などを行う。 ・発表原稿や資料の構成を行う。	・有価証券報告書の分析結果を整理させる。 ・発表用資料は、プレゼンテーションソフトを活用し工夫させる。
まとめ	・本時に調べた内容をまとめる。	

3時間目は、前時に調査した企業のうち、関心をもった企業を絞り有価証券報告書を活用して調査した。

有価証券報告書の調査に際し、分析結果を聞き手側に伝えるために「有価証券報告書から見えるもの」というワークシート（発表用調査資料）【資料2】を基に、整理した情報を共有できるように指示した。日頃の授業とは違い、財務諸表の数値だけでなく、企業の沿革や事業の内容、従業員の数や平均年齢・平均給与等も調査するように指示した。この調査は企業の全体像を把握することがねらいである。

企業の沿革を調査することにより、その企業の歴史が理解でき、生徒はより関心を持った様子であった。本時に調査した内容をグループごとにまとめる活動も、積極的に行っていた。有価証券報告書を基にして調査した項目及び学習活動は、以下のとおりである。

- ①「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」について記載されている主要な経営指標を調べる。
- ②「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」における沿革・事業の内容に関する記述を参照して、企業の歴史と主要な事業と考えられる事業を取り上げるとともに、それぞれの事業内容を要約する。
- ③「第一部企業情報」の「第1 企業の概況」における関係会社の状況に関する記述を参考に、子会社1社及び関連会社1社を取り上げ、その会社の状況をまとめる。
- ④「第一部企業情報」の「第1 企業の概要」における従業員の状況に関する記述を参照してまとめる。



ワークシート【資料2】に有価証券報告書の内容をまとめている



ワークシート【資料2】

発表用調査資料 有価証券報告書から見えるもの

班  
私たち 班は、 における有価証券報告書について調べました。

1 企業の経営成績

企業名	
年度	
売上高	
売上総利益	
営業利益	
経常利益	
当期純利益	
直営	
フランチャイズ	

○上記の内容から分かったこと

2 企業の財政状態及び安全性分析

決算年月日	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
売上高 (単位:百万円)			
税引前利益 (単位:百万円)			
当期純利益 (単位:百万円)			
純資産額 (単位:百万円)			
自己資本比率			
自己資本利益率			
株価収益率			
従業員数			

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

3 企業の沿革

年月	概要

4 企業の主要な事業

事業の名称 (事業の種類)	事業の内容についての要約
報告セグメント	
その他	

5 企業の主な子会社及び関連会社 (1社)

○子会社

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合

○関連会社

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合

○企業の主な子会社及び関連会社 (1社) における従業員の状況

従業員数 (名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

6 企業のリスクについて

7 設備投資の状況について

事業の名称 (事業の種類)	設備投資	
	金額	前年同時期比 (%)

8 企業の主な株主

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済み株式数に対する所有株式割合

9 財務諸表数値 (一部)

	連結財務諸表の数値	個別財務諸表の数値
総資産		
自己資本		
売上高		
売上総利益		
営業利益		
経常利益		
当期純利益		

○上記の内容から疑問点や気づいたこと

※ワークシート「有価証券報告書から見えるもの」【資料2】について

有価証券報告書を主体的に活用し発表できるように配慮した。有価証券報告書から調査項目を絞り、共通した視点をもって経営分析を行うことにした。

これは、他の班と自分の調査とを比較しやすくするため、また、評価の基準値も設定しやすくするためである。

調査内容は「第一部企業情報」

「第1 企業の概要」

「第2 事業の状況」

「第3 設備の状況」

「第4 提出会社の状況」

「第5 経理の状況」

をさらに細分化して調査項目とした。

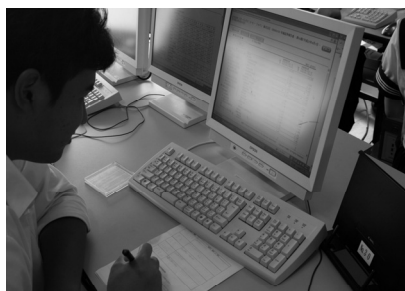
まとめやすい形でワークシートを提示することで、生徒が自主的・主体的に学習活動できるように工夫した。

## エ. 4 時間目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・前時に調べた内容を確認する。	
展開	・ワークシート（発表用調査資料）【資料 2】を基に、情報を整理し共有する。 ・有価証券報告書から経営分析などを行う。 ・有価証券報告書を基に、まとめた内容を整理する。 ・発表用の資料をプレゼンテーションソフトを活用し、発表の準備を行う。	・分析した結果にとどまらず、その結果から感じた疑問点や気付いた点についてもまとめさせる。
まとめ	・次回の学習内容の概要をつかむ。	

4 時間目は、有価証券報告書から経営分析を行った。生徒は、経営分析を通して企業の全体像や特徴などが把握できてきたようで、主体性をもって取り組んでいた。有価証券報告書を基にして調査した項目及び学習活動は、以下のとおりである。

- ①「第一部企業情報」の「第 2 事業の状況」における事業等のリスクについてまとめる。
- ②「第一部企業情報」の「第 3 設備の状況」における設備投資等の概要に関する記述を参照して、当期の設備投資についてまとめる。
- ③「第一部企業情報」の「第 4 提出会社の状況」から会社を誰が支配しているのかをまとめる。
- ④「第一部企業情報」の「第 5 経理の状況」に記載されている連結財務諸表及び個別財務諸表を参照して、財務諸表数値を記入する。



発表用の資料をグループでまとめている様子

授業の後半から、次時に発表する準備として、プレゼンテーションソフトを活用してスライドを作成した。発表時間は 5 分間であるため、調査・分析結果など発表を通して伝えたいことを整理・工夫するよう指示した。生徒は、校内での課題研究発表大会に向け、プレゼンテーションソフトを活用して資料の作成等を行っており、要点をおさえた内容に仕上がった。

## オ. 5 限目の授業

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	・本時の活動内容を確認する。	
展開	・「発表用原稿」に基づいて発表する。 ・聞く側は、「発表評価シート」【資料 3】を活用しながら、	・各班 5 分以内 ・発表内容に対する疑

	メモをとる。 ・発表について、「発表評価シート」【資料3】に評価をする。	問点など、ワークシートに記入させる。
まとめ	・授業に関するアンケートに回答し、学習活動全体を振り返る。	・有価証券報告書は、単なる決算書ではなく、企業の情報を提供するために作成されている点を再確認させる。

5時間目は、大型モニタを活用して発表を行った。各班ともプレゼンテーションソフトを活用して発表時間内に発表することができた。いずれもワークシート【資料2】を基にした内容であったため、分かりやすい発表であった。また、話し手の一方的な発表にならないように、聞き手に対しても「発表評価シート」【資料3】を活用して、発表に対して自分の意見を数値等で評価させた。なお、各班の調査するテーマ及び発表内容要旨【資料4】は下記のとおりである。



発表の様子

【資料3】

発表評価シート		
番 名 前		
1 他の班と比較して、自分の班の発表はどうでしたか。		
ア とても良くできた    イ あまり納得できなかった    ウ 出来が悪かった		
2 他の班の発表を評価してみましょう。		
	評 価	感 想
1 班		
2 班		
3 班		
4 班		
5 班		
6 班		
3 とても良くできた    2 あまり良くできなかった    1 できなかった		
3 どの班の発表が一番良かったですか		
班	理 由	



発表を聞いて評価している様子

## 【資料4】

## 調査するテーマ及び発表内容要旨

\*           は、発表において、生徒からの発表に対して評価が高かった部分。

	調査するテーマ	発表内容要旨
1班	○幅広い年齢層に人気のあるテーマパークについて考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有価証券報告書から、①投資などが適切なタイミングで出来ないためにクオリティが低下したことによる入園数の減少、②キャストの不足によりクオリティが低下することによる入園数の減少、③アトラクションなどの製品の事故、④情報管理など危機管理に取り組んでいることが読み取れた。</li> <li>・ テーマパークやホテルの経営・運営を主としている。また、鉄道事業及び不動産業も手がけている。</li> <li>・ 子会社はすべて近隣にある。</li> <li>・ <u>アトラクションなどの乗り物事故による損失はあるのか、年間の水道光熱費はどのくらいかかるのか、疑問である。</u></li> <li>・ 従業員の平均年齢が高い。</li> <li>・ ブランドイメージが強い。</li> </ul>
2班	○世界的に有名な日本の電気産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>大株主が所有する株式数が1億を超えており、様々なリスクに対して備えている。</u> 元々は電気会社であるが、現在は、住宅事業や映像・音響機器事業などの業種を超えた幅広い事業を展開している。</li> <li>・ 世界中に輸出しているため、円高になると利益損失など悪影響を及ぼす。</li> <li>・ 個別財務諸表の売上高は連結の半分を占めているのに当期純損失である。つまり、子会社の利益が大きいことが読み取れる。</li> </ul>
3班	○世代を超えた人気のあるファーストフード産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクについて、鳥インフルエンザや風評被害にあわないためにどのような対策がされているのか疑問である。</li> <li>・ 販売業だけでなく、実行業務及び不動産賃貸業務も行っている。</li> <li>・ <u>海外から輸入品が多いので為替の変動が売上高や売上原価に大きな影響があった。</u></li> <li>・ 販売業だけでなく、実行業務及び不動産賃貸業務も行っている。</li> <li>・ 営業利益と経常利益の差があまりなかった。</li> <li>・ 企業大株主は外国の同会社2つが半数を占めている。</li> </ul>
4班	○世界的な経営戦略を展開する日本の自動車産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別と連結を比べると、個別では営業利益と経常利益が損失になっているが連結だと利益になっている。</u></li> <li>・ 関連会社と子会社が大都市、近郊に多い。他の会社の株式を多く持っている。</li> <li>・ 金融・経済、市場及び事業に関するリスクに備えている。</li> <li>・ 大手企業の中でも高い技術水準を保ち、企業としては健康である。</li> </ul>

5 班	○スマートフォンが注目され、インターネット上で経営するIT産業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高及び当期純利益は増加している。純資産も増加している。従って、自己資本比率も上昇しているが、自己資本利益率は下がっている。その原因は株価収益率の低下が関係していると思われる。</li> <li>・従業員数は三千人を超え、平均年齢は30代前半と低めだが、平均年間給与は6百万円を超える。</li> <li>・疑問点としてはなぜ平均年齢が低いのか、また、新たな事業を今後どのように発展させていくのだろうかという点が挙げられる。</li> <li>・<u>23年度に売上高を増加させることができたのは、ゲームサイト運営が理由ではないかと考えた。</u></li> </ul>
6 班	○世界中に店舗展開を行い、コーヒー販売等特色ある販売戦略を行っている企業を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>コーヒー豆を扱う店のため、価格相場の変動や、自然災害による影響が利益に大きくかわる。</u></li> <li>・従業員数はどの年も2,000人以内で多くないが、パートの人数は従業員数の10倍近くある年もある。つまり、パートを多く雇うことによって<u>人件費を減らしコストダウンを図っている。</u></li> <li>・店頭販売だけでなく、ドライブスルーやコーヒー製品をコンビニエンスストアで販売するなど、販売形態が多様化している。大株主はA株式会社が所有株式割合が40.1%と高い。</li> <li>・環境負荷低減の取り組みにも積極的に参加し、店舗で排出される食品廃棄物を回収し、堆肥や飼料にリサイクルしている。</li> </ul>

発表評価シートを集計した結果、1番高い評価を受けたのは、5班で19名（51%）であった。2番目に高い評価を受けたのは、1班で11名（29%）であった。

5班及び1班を支持した生徒が書いた理由は、以下のとおりである。

#### 5班を支持した理由

- ・全員声が大きくて聞き取りやすかった。
- ・発表がスムーズで内容がまとまっていてとても分かりやすかった。
- ・発表資料も見やすく分かりやすかった。
- ・聞き手に対して、内容が理解できるように発表資料がまとめてあった。
- ・売上が何故伸びたのか明確になっており納得できた。
- ・重要と思われることがまとめられていた。

## 1 班を支持した理由

- ・問題点や疑問点について明確に述べており、私も一緒に考えることができた。
- ・スライド1つ1つが詳しく、とても見やすかった。
- ・発表する人も声が聞き取りやすく、分かりやすかった。
- ・自分たちの言葉で、分かりやすく丁寧に発表していたから。
- ・調べたことだけでなく疑問点を挙げたことが良かった。

5班と1班の評価が高かった理由としては、発表した生徒の声の大きさやプレゼンテーションの内容が挙げられる。分析をしていく中で、疑問に思ったことも発表の内容に含めていたことが特徴的であった。いずれの班も社会的に知られた業種を取り上げており、同世代に人気のある企業を調査・研究したことも、生徒の興味・関心につながったようである。

発表においては、指導者側が用意した資料や有価証券報告書をそのまま活用するのではなく、与えられた資料の内容を整理して、どこに発表のポイントを置くかを班で検討していた。プレゼンテーションソフトを活用したり、自分たちの言葉で、分かりやすく丁寧に発表した。また、調査・分析にとどまらず、班で考察した問題点や疑問点、分析結果に対する意見をまとめる様子が、各班とも共通して見受けられた。

授業の最後に、授業アンケートを実施した。詳細については、「授業後アンケート」【資料5】に記載したが、今回の調査・研究を通じて、以下のような生徒の感想を得た。

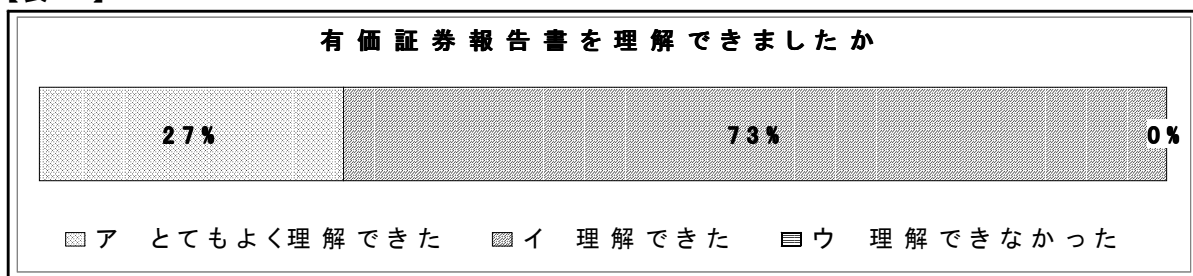
### 【資料5】

授業後アンケート	
1. 有価証券報告書を理解できましたか。	
ア とてもよく理解できた。	イ 理解できた                      ウ 理解できなかった
2. 有価証券報告書を活用して、また、企業を調査してみたいですか。	
ア 調査してみたい	イ 興味がない
3. 有価証券報告書を調査する時、会計の知識が生かされましたか。	
ア 生かされた	イ 生かされなかった
4. これから会計では、どの分野の知識を伸ばしていきたいですか。	
ア 企業の経営状況	イ 企業の財政状態                      ウ ビジネスの内容
5. 班内で協力して、活動を行うことができましたか	
ア 協力してできた	イ できなかった
6. この活動を通してどんなことが身につきましたか	
ア 協調性	イ 探究心                      ウ 財表分析                      エ 発表態度
7. この活動を通して、感じたこと・考えたことなどを自由に書きなさい。	
<div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	

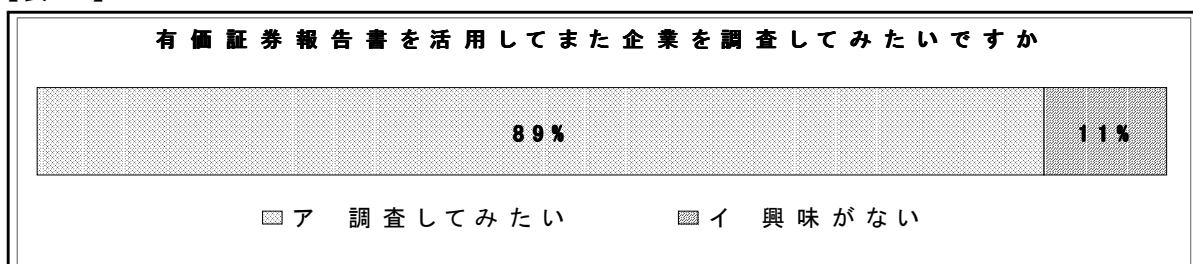


授業後にアンケートを記入している様子

【表2-1】

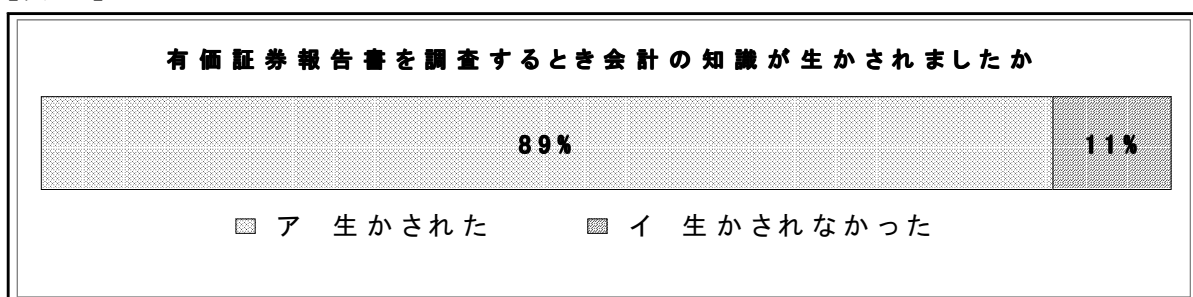


【表2-2】



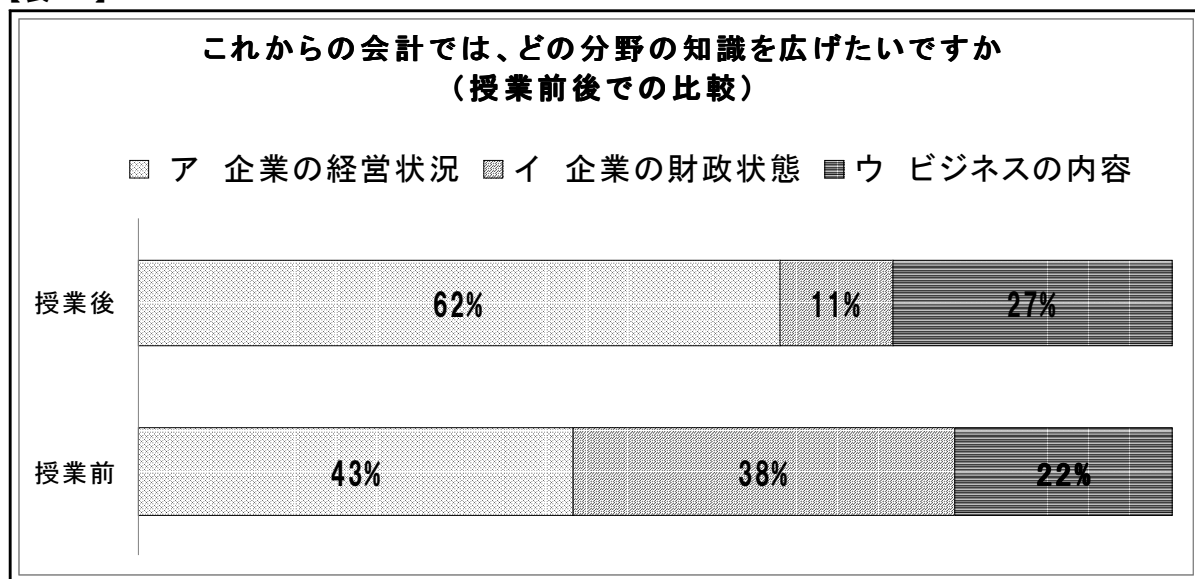
授業前アンケートでは、有価証券報告書について知らない生徒がほとんどであったが、この一連の授業を通して、有価証券報告書を「理解できた」と全員が回答し【表2-1】、89%の生徒が「また、調査してみたい」と有価証券報告書に対して興味・関心をもっている【表2-2】。これは貸借対照表、損益計算書やキャッシュフロー計算書などを教材として取り上げても同じような傾向になると推測される。

【表2-3】



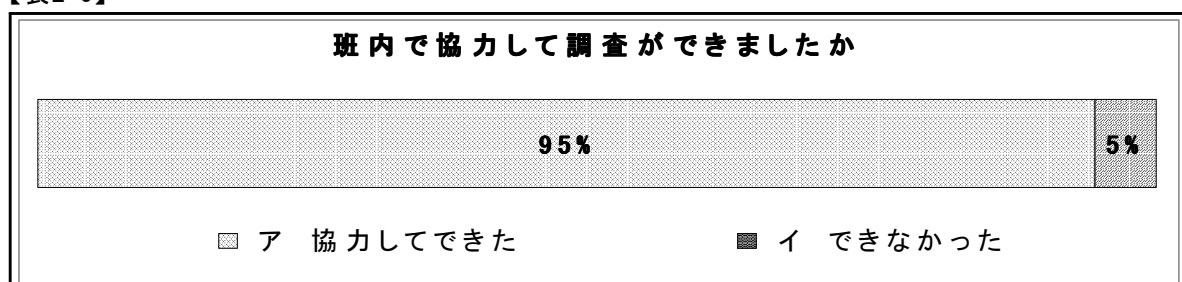
生徒が自ら学習した内容を生かし、実際の有価証券報告書を読み解くことで、知識を生かして意見をまとめていることが分かる【表2-3】。

【表2-4】

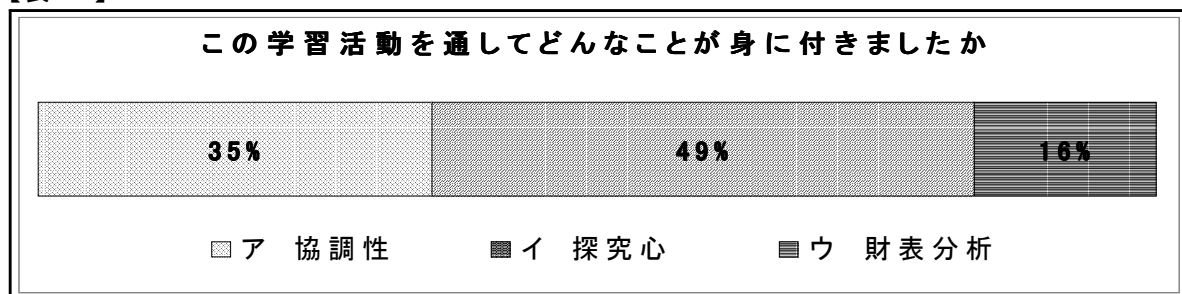


「企業の財政状態」は授業前アンケートでは38%であったが、授業後アンケートでは11%になった。しかし、「企業の経営状況」「ビジネスの内容」はそれぞれ増加している【表2-4】。これは、今回の授業において、実際に調べ学習を行ったことで、生徒が日頃の教科書や問題集では学ぶことができない企業の経営状況やビジネス活動の内容について、興味・関心をもったためではないかと思われる。

【表2-5】



【表2-6】



「この学習活動を通してどんなことが身に付きましたか」の問いに対して、協調性35%、探究心49%という回答であった【表2-6】。このことから、授業の内容をビジネス活動と関連付けることで、自主的・主体的な学習態度が身に付き、学習意欲の向上につながると考えられる。



## 感じたこと・考えたことなどの自由記述欄の回答 【資料5の7から】

- ・有価証券報告書を調べることによって、その企業について分かるので、調べて楽しかった。
- ・日頃から学んできた会計の知識を生かせたと思います。
- ・グループで協力して調べまとめることができ、協調性の大切さを改めて感じました。
- ・みんなで協力し合って役割分担ができたので、良かったと思います。
- ・興味がないことでも、調べていくうちに疑問点が出てきてどんどん興味を持ち始めると楽しくなった。
- ・自分たちの知識でも実際の企業の報告書を理解できることが分かった。
- ・普通の顧客としてではなく、違った視点で企業を見ることができ興味深かった。他の企業のことも、さらに調べてみたいと思った。
- ・2年間学んできたことを生かして、財務諸表から企業の状態を導き出すことができた。もっと深く調べてみたいと思った。
- ・今まで知らなかった有価証券報告書の調べ方が分かった。
- ・協力して何かを調べ発表することの難しさが理解できた。
- ・この活動を通して、企業がどのように工夫したら売れるかということが分かった。今まで、学んできたこと生かして良かった。
- ・今まで企業の詳しいことまでは知らなかったけれど、この授業で少し知ることができた。
- ・日頃から学んできた会計の知識を生かすことができ、自分たちの知識でも実際の企業の有価証券報告書を理解できることが分かった。
- ・もっと深く調べてみたいと思った。
- ・グループで協力して調べまとめることができ、協調性の大切さを改めて感じました。

アンケートや感想から、有価証券報告書について一部ではあるが理解できたこと、日頃学習してきた知識が実務で活用されていること、実際のビジネスに即した体験的学習ができたことなど、ビジネスの諸活動と学習がつながっていることを、生徒はこの授業を通して実感できたようである。また、グループで調査・研究する活動を通して協調性の大切さを学ぶとともに、調査したことについて討論し考察する難しさを学んだということも分かる。

今回の一連の企業調査・研究を通して、有価証券報告書に興味・関心が高まるとともに、さらに深く調べてみたいという探究心をもつことができたようである。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

本事例では、インターネットなどを活用し、有価証券報告書を調べ発表するという学習活動を行った。また、事例研究やグループ学習などを通して、利害関係者に提供された会計情報を基に、企業の経済活動について主体的に考察させた。

本事例は、生徒にとって、何が本質的な課題かを見極め分析すること、課題を解決するための手段・行動を繰り返すことによって、思考力・判断力を養う機会となった。また、専門的な学習を通して、ビジネスの諸活動に会計情報を活用する会計活用能力も養うことができた。

グループ学習においては、同じ目的をもつことによって、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力と態度を養うことができる。この学習活動は専門性の深化を図る上で有効な学習形態であった。

新学習指導要領で示されている「将来のスペシャリストの育成」、「地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」という3つの観点のうち、「将来のスペシャリストの育成」という観点から、授業の中で実際のビジネスの1つである有価証券報告書を用いて、企業研究することは極めて重要である。

有価証券報告書を活用し、実際の企業を調査・分析することにより、生徒は多面的な視点をもって考察することの大切さに気付く結果となった。

#### (2) 課題

本事例では、「生徒が、利害関係者に提供された会計情報を基に、主体的に考察し、まとめ、発表する。」という学習活動ができた。しかし、調査・研究をスムーズに進めるために、教師側で有価証券報告書の調査項目や発表項目をあらかじめ用意しておいた。有価証券報告書を、生徒自らの視点を持ちながら考察させることも必要だと感じた。

本事例の成果を足がかりに、今後も学習内容とビジネスの諸活動と関連付けながら、このような活動を計画的に取り入れていきたい。また、ケーススタディや討論など様々な学習活動を取り入れながら、会計責任の果たす重要性について理解させていきたい。

#### 〈参考文献〉

『高等学校学習指導要領解説 商業編』 文部科学省 平成22年5月